

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26285013

研究課題名(和文) 名古屋議定書における人権、経済及び他の協定との相互連関 - 京都議定書との比較研究 -

研究課題名(英文) Interlinkage between the Nagoya Protocol and Other International Agreements including International Human Rights and Economic Law - A Comparative Study on the Kyoto Protocol

研究代表者

西村 智朗 (NISHIMURA, TOMOAKI)

立命館大学・国際関係学部・教授

研究者番号：70283512

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文)：多数国間環境協定の一つである名古屋議定書は、海洋法、国際経済法、または国際人権法との間で密接な相互関連性を有している。これは、同議定書が、遺伝資源の利益配分を対象とすることを最大の理由とするが、最近の地球規模環境問題は、その問題の多様性や複雑性から必然的に既存の他分野の法制度に影響を及ぼす傾向にある。同様のことは、気候変動条約制度(京都議定書やパリ協定)からも確認することができ、国際環境法が持続可能な発展に関する法に包摂されることにより、国際法の分断化と統合にも重要なインパクトを与えると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The Nagoya Protocol, which is one of multilateral environmental agreements, has close inter-linkage with other international instruments, including law of the seas, human rights law and international economic law, since the purpose of the protocol is the benefit sharing of genetic resources. The current global environmental issues tend to have a great influence upon the other legal regime because of its diversity and complexity. The same trends can be seen in the climate change regime such as the Kyoto Protocol and the Paris Agreement and it is said that they could provide an significant impact of a fragmentation and integration of international law.

研究分野：国際環境法

キーワード：名古屋議定書 パリ協定 京都議定書 持続可能な発展

#### 1. 研究開始当初の背景

国際法の分断化とそれに対応する多数国間環境協定の現状に着目した研究代表者は、2010年に採択された名古屋議定書に注目し、これまで研究素材であった京都議定書を比較対象として、他の国際文書(条約及び非拘束的文書)との関係性の研究に着手した。同じく国際環境法を専門とする高村、人権法を研究対象とする徳川および松本(小坂田)知的財産権に関する研究機関に所属する松井を研究分担者として研究チームに加え、少数人民の権利やWTO/TRIPs レジームとの調整の必要性といった既存の国際法制度との抵触や法の欠缺について分析を開始した。

#### 2. 研究の目的

本研究は、生物多様性条約/名古屋議定書及び気候変動条約/京都議定書における他の国際法分野との相互連関の現状を検討し、国際法の分断化の現状を理論的に検証すると共に国際法の統合又は調整の可能性について研究する共同研究である。

#### 3. 研究の方法

本研究は、環境条約相互間(西村・高村)、経済・貿易条約との関係(松井)、人権条約との関係(徳川・松本(小坂田))について、それぞれの専門分野を活かして研究を行い、適宜、研究会を開催して、その知見や情報を共有した。また、毎年日本と韓国(高麗大学校)で交互にワークショップを開催し、そこで研究報告を行うことで、成果の精緻化を図った。

#### 4. 研究成果

名古屋議定書は、議定書採択当時から、第4条が規定しているとおり、他の国際協定及び国際文書との関係について、いくつかの重要な課題が指摘されており、研究メンバーは、それぞれの専門分野を活かして研究を行った結果、特に環境条約相互間では、名古屋議定書の適用範囲に関連して、海洋法に関連して「国家管轄権外区域における海洋生物多様性(BBNJ)」において現在交渉中の国際協定との間で両者の整合性や基本となる法原則に注目していく必要性を認識した。また経済・貿易条約との関係では、名古屋議定書採択後に懸案として関心が高まった「デジタル配列情報の取扱い」について、知的財産権に関するWTO/TRIPs協定との整合性に関する新たな議論が展開されていることを把握した。人権条約との関係では、名古屋議定書にも規定されている「遺伝資源やその伝統的知識に対する少数人民の権利」に関連して「事前の自由なインフォームド・コンセント」(Free, Prior and Informed Consent: FPIC)を得る義務が国際人権法の観点から注目されている現状を確認した。

これらの研究成果に加え、科研採択時から密接な研究の連携を続けている韓国の高麗

大学校およびKRIBBとのワークショップを毎年開催し、日本および韓国における名古屋議定書の実施状況や国内法制度の違いなどについても知見を交換した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計30件)

Tomoaki Nishimura, The Legal Framework for Marine Genetic Resources: The Relationship between the UNCLOS and the Convention on Biological Diversity Regime, *Asian Business Lawyer*, 査読無し、Vol.19、2018、now printing

高村ゆかり、パリ協定は世界を変えつつある、*世界*、査読無し、2018年別冊、2018、pp.94-102

Tomoaki NISHIMURA, Nohyoung PARK, Soo Hyo LEE, Yuki MORINAKA & Yukari TAKAMURA, Myung-Hyun, CHUNG, and Yuko OSAKADA, The Current State and Issues regarding the Nagoya Protocol、立命館国際地域研究、査読無し、46号、2017、pp.1-57

高村ゆかり、環境分野の国際立法—その特質と課題、*法律時報*、査読無し、89巻10号、2017、pp.63-69

高村ゆかり、パリ協定 - その特質と課題、*公衆衛生*、査読無し、81巻12号、2017、pp.966-972

Takanobu KIRIYAMA and Yuko OSAKADA, The Ainu in Japan - The Ainu and International Law-、*法学雑誌*、査読無し、63巻4号、2017、pp.105-116

高村ゆかり、米国不在でも進むパリ協定の枠組み、*外交*、査読無し、41号、2017、pp.121-127

高村ゆかり、環境法学から見たTPP環境章、*国際商事法務*、査読無し、45巻4号、2017、pp.541-547

高村ゆかり、<COP21 企業への影響>化石燃料の「座礁資産」化 企業のリスク開示も必要に、*日経ビジネス*、査読無し、1841号、2016、pp.72-73

小坂田裕子、アイヌ女性と複合差別 - 多原良子さんと八幡巴絵さんへのインタビュー、*部落解放研究*、査読無し、206号、2017、pp.96-110

松井章浩、名古屋議定書における知的財産法の課題、*知的財産専門研究*、査読有り、19巻、2017、pp.1-17

松井章浩、投資仲裁における商標権と公衆衛生規制の抵触、*知的財産専門研究*、査読有り、20巻、2017、pp.23-43

高村ゆかり、京都議定書とパリ協定 - その国際制度と実施のための国内制度、*論究ジュリスト*、査読無し、19号、2016、pp.59-65

高村ゆかり、生物多様性条約上の義務履行における裁量の範囲、平成27年度重要判例

解説(ジュリスト) 査読無し、1492号、2016、pp.284-285

高村ゆかり、温暖化ガスを削減する新たな国際条約「パリ協定」とは—京都議定書とはどこが違うのか

一、国民生活、査読無し、45巻、2016、pp.12-14

高村ゆかり、パリ協定がめざす脱炭素社会—再生可能エネルギーの役割とさらなる普及のための課題と展望、光発電、査読無し、39号、2016、pp.7-14

高村ゆかり、パリ協定で何が決まったか—その評価と課題、環境と公害、査読無し、45号、2016、pp.33-38

高村ゆかり、パリ協定で何が決まったのか—パリ協定の評価とインパクト、法学教室、査読無し、428号、2016、pp.44-51

高村ゆかり、パリ協定の発効の見通しと早期発効の影響、The Climate Edge、査読無し、25号、2016、pp.14-18

高村ゆかり、パリ協定の早期発効は何を意味するか—再エネを軸に脱炭素社会に向かう世界、世界、査読無し、888号、2016、pp.204-210

(21)西村智朗、名古屋議定書における遵守手続、立命館法学、査読無し、363-364号、2016、pp.1812-1834

(22)徳川信治、国際法における個人と国家—欧州人権条約における個人救済、立命館法学、査読無し、363-364号、2016、pp.395-419

(23)松井章浩、国際人権条約における知的財産、立命館法学、査読無し、363-364号、2016、pp.811-836

(24)高村ゆかり、COP21で何が決まったか：パリ協定の意義と課題、環境会議、査読無し、45巻、2016、pp.114-120

(25)高村ゆかり、気候変動政策の国際枠組み：パリ協定の合意とパリ後の世界、環境研究、査読無し、181号、2016、pp.11-21

(26)徳川信治、国際人権機関の法実践—「過去の不正義」への取り組み、法律時報、査読無し、87巻10号、2015、pp.40-45

(27)Yuko OSAKADA、The Nagoya Protocol in and Indigenous Peoples' Perspective、中京法学、査読無し、50巻2号、2015、pp.115-131

(28)西村智朗、多数国間環境協定と「他の国際文書」との相互連関—名古屋議定書を素材として—、国際法外交雑誌、査読有り、113巻4号、2015、pp.1-19

(29)高村ゆかり、着実に低炭素社会に向かう目標づくりを、環境と文明、査読無し、23巻2号、2015、pp.4-5

(30)小坂田裕子、「先住民族の権利に関する国連宣言」の実施に向けた国際的努力と課題、中京法学、査読無し、49巻3-4合併号、2015、pp.311-343

[学会発表](計56件)

西村智朗、名古屋議定書からみたBBNJ、海洋法政策研究所公開シンポジウム「国家管轄権外区域の海洋生物多様性の保全及び持続

可能な利用」(招待講演)、2018年

高村ゆかり、パリ協定とパリ協定後の世界の動き、産業環境管理協会主催フロン類等対策に関するシンポジウム「キガリ改正遵守・フロン排出抑制法等について」(招待講演)、2018年

高村ゆかり、パリ協定：ゲームチェンジと非国家主体の役割、気候変動の新たな国際枠組みにおける実効性を確保する国際環境レジームの設計・東京ワークショップ、2018年

高村ゆかり、パリ協定と変わる世界の潮流、朝日新聞社、名古屋大学大学院環境学研究科主催シンポジウム「脱炭素革命とESG投資—パリ協定が変えるビジネス」、2018年

Yukari TAKAMURA、3 points on Japan's recent renewable policy、Experts Meeting on Japan's Renewables、organized by Renewable Energy Institute(招待講演)(国際学会)、2018年

高村ゆかり、パリ協定の実施と脱炭素化にむけた政策ニーズと研究課題、Future Earth研究センターキックオフワークショップ(招待講演)、2018年

Yukari TAKAMURA、Climate and Energy Nexus in a Global Context: Paris Agreement and Energy Transition、Japan-Australia Energy Dialogue(国際学会)、2018年

Tomoaki NISHIMURA、Legal Framework for Marine Genetic Resource、Korea-Japan Conference on the Nagoya Protocol(招待講演)(国際学会)、2017年

Yukari TAKAMURA、Development in Japanese Implementation after Entry into Force of the Nagoya Protocol、Korea-Japan Conference on the Nagoya Protocol(招待講演)(国際学会)、2017年

高村ゆかり、国際環境法の現代的展開とその課題—グローバル化の観点から、世界法学会(招待講演)、2017年

高村ゆかり、パリ協定の意義とビジネスへのインパクト、環境経営学会研究報告大会第17回定期総会(招待講演)、2017年

高村ゆかり、パリ協定—その特質と課題、環境法政策学会2017年度学術大会(招待講演)、2017年

Yukari TAKAMURA、The Paris Agreement and Energy-Climate Policies in Japan、21st REFORM Group Meeting(招待講演)(国際学会)、2017年

Yukari TAKAMURA、Japan's climate Policy After the Paris Agreement: Its State of Affairs and Challenges、Japan-Australia Dialogue on Energy Policy & Regulation(国際学会)、2017年

Yukari TAKAMURA、2016 Amendment of Feed-in Tariff Act and Challenges of Japan's Renewable Law and Policy、Japan-Australia Dialogue on Energy Policy & Regulation(国際学会)、2017年

Yukari TAKAMURA、Long-term Strategy

toward De-carbonization: From the Japanese Perspective、GEA2017 (招待講演) (国際学会)、2017年

Yukari TAKAMURA、Societal Transformation toward decarbonized and sustainable development and employment、COP23 Side Event: Environmental Policy and Employment organized by The Japanese Trade Union Confederation (Rengo)(招待講演)(国際学会)、2017年

Yukari TAKAMURA、Current Status and Challenges of Japan's Renewable Policy、Climate Policy Research Workshop 2017, co-organized by The Energy and Resources Institute (TERI), India, and Institute for Global Environmental Strategies (IGES), Japan (招待講演)(国際学会)、2017年

高村ゆかり、脱炭素化に向けた日本の制度改革、東アジア環境政策研究会主催国際シンポジウム「東アジアの持続可能な未来に向けたエネルギー、資源、土地利用の大転換と制度改革 - 電源・産業・交通部門 - 」(招待講演)(国際学会)、2017年

Tomoaki NISHIMURA、Global Multilateral Benefit Sharing Mechanism under Article 10 of Nagoya Protocol、Japan-Korea Workshop on Access to Genetic Resources and Benefit Sharing Arising from their Utilization under the Nagoya Protocol (国際学会) 2017年

(21) Yuko OSAKADA、The CBD in the Human Rights Regime、Japan-Korea Workshop on Access to Genetic Resources and Benefit Sharing Arising from their Utilization under the Nagoya Protocol (国際学会) 2017年

(22) Yuki Morinaka & Yukari Takamura、Recent Developments in Japanese Implementation of the Nagoya Protocol、Japan-Korea Workshop on Access to Genetic Resources and Benefit Sharing Arising from their Utilization under the Nagoya Protocol (国際学会) 2017年

(23) 高村ゆかり、REDD+の過去と現在、森林総合研究所主催国際セミナー「REDD+推進に向けて:官民投資の連携」(招待講演)、2017年

(24) 高村ゆかり、パリ協定後の世界と米国防権交代のインパクト、朝日新聞社・名古屋大学大学院環境学研究科主催シンポジウム「トランプ時代の気候変動とビジネス」(招待講演)、2017年

(25) 高村ゆかり、パリ協定の意義と今後の課題、エネルギー持続性フォーラム公開シンポジウム『気候変動「パリ協定」とエネルギー社会の未来』(招待講演)、2017年

(26) 高村ゆかり、パリ協定 - その意義と今後の課題、環境科学会市民公開講演会(招待講演)、2017年

(27) 高村ゆかり、日本のエネルギー・温暖

化政策その現状と課題、植田和弘教授退職記念シンポジウム(招待講演)、2017年

(28) Yukari TAKAMURA、Climate Changes and Law of the Sea: A New Role for the Tribunal?、International symposium "ITLOS at 20: Looking into the Future" organized by the International Tribunal for the Law of the Sea (招待講演)(国際学会)、2017年

(29) Tomoaki NISHIMURA、The Paris Agreement: its Relationship to UNFCCC and Kyoto Protocol and Fundamental Principles、The Sixth International Four Societies Conference, "International law, Innovation, and the Environment" (国際学会) 2016年

(30) 高村ゆかり、パリ協定 そのインパクトと課題、化学工学会シンポジウム「パリ協定と気候変動対策」(招待講演)、2016年

(31) 高村ゆかり、パリ協定とパリ後の温暖化対策、第28回環境システム計測制御学会(EICA)研究発表会(招待講演) 2016年

(32) Yukari TAKAMURA、Climate litigation: Its Function and Challenges、2016 DILA INTERNATIONAL CONFERENCE "Resolution and Prevention of International Environmental Disputes" (招待講演)(国際学会) 2016年

(33) Yukari TAKAMURA、Significance and Challenges of the Mercury Convention、JICA研修コース「水銀に関する水俣条約批准に向けた能力強化」(招待講演)(国際学会)、2016年

(34) 高村ゆかり、パリ協定後のエネルギー・温暖化政策、海外電力調査会主催シンポジウム(招待講演)、2016年

(35) Yukari TAKAMURA、Japan's implementation of international treaties on climate change: Its characteristics and challenges、中央大学日本比較法研究所「環境法政策の国際比較研究」研究会(招待講演)(国際学会) 2016年

(36) Yukari TAKAMURA、International Environmental Agreements before Japanese Courts、早稲田大学比較法研究所シンポジウム「日仏における環境法と環境訴訟」(招待講演)(国際学会)、2016年

(37) Yukari TAKAMURA、The Paris Agreement: Its Implications and challenges、"International Conference on the Paris Agreement: Key Elements and Implementations" organized by Center for International Law, KNDA and SSK Research Center for Climate Change and International Law (招待講演)(国際学会)、2016年

(38) Yukari TAKAMURA、The Paris Agreement: Issues relating to ratification and entry into force、"Roundtable for the Paris Agreement: An Assessment and Future Agenda" organized by The Korean Society of

International Law & SSK Research Center for Climate Change and International Law, (招待講演)(国際学会)、2016年

(39) Yukari TAKAMURA、Energy prices, climate change and geopolitics: What's next、The 30th Asia-Pacific Roundtable, organized by the Institute of Strategic and International Studies (ISIS) Malaysia (招待講演)(国際学会)、2016年

(40) 高村ゆかり、COP21 とパリ協定の意義、一般社団法人 未踏科学技術協会「エコイノベーションとエコビジネスに関する研究会」主催 2016年度第3回 SPEED 研究会(招待講演)、2016年

(41) Yukari TAKAMURA、Global stocktake and Adaptation、環境省主催 Japan-India Policy Research Workshop(招待講演)(国際学会)、2016年

(42) 松井章浩、投資仲裁における知的財産、大阪工業大学知的財産専門研究会、2016年

(43) Tomoaki NISHIMURA、The Prospect of Japan's Ratification of Nagoya Protocol、Korea-Japan Conference on the Nagoya Protocol(国際学会)、2016年

(44) Yukari TAKAMURA、Nagoya Protocol and BBNJ、Korea-Japan Conference on the Nagoya Protocol(国際学会)、2016年

(45) Akihiro MATSUI、Nagoya Protocol from the perspective of Intellectual Property Law、Korea-Japan Conference on the Nagoya Protocol(国際学会)、2016年

(46) Tomoaki NISHIMURA、Entry into force of the Nagoya Protocol and its Challenges to Come、Japan-Korea Workshop on Access to Genetic Resources and Benefit Sharing Arising from their Utilization under the Nagoya Protocol(国際学会)、2015年

(47) Yuko OSAKADA、The Nagoya Protocol in an Indigenous Peoples' Perspective、Japan-Korea Workshop on Access to Genetic Resources and Benefit Sharing Arising from their Utilization under the Nagoya Protocol(国際学会)、2015年

(48) 高村ゆかり、気候変動交渉の到達点とパリ合意の展望、日刊工業新聞社「グリーンフォーラム21」第4回事例研究会「温暖化交渉の今後」(招待講演)、2015年

(49) 高村ゆかり、気候変動の影響リスクへの適応と予防原則、フランス・エクス・マルセイユ大学国際欧州センター(CERIC)、早稲田大学比較法研究所主催国際シンポジウム「環境公衆衛生上のリスク処理に関する日仏比較法研究」(招待講演)、2015年

(50) 高村ゆかり、気候変動に対処する資金メカニズム - その到達点と課題: REDD plus の観点から、森林総合研究所主催国際セミナー「REDD プラスの資金メカニズムとその活用」(招待講演)、2015年

(51) 高村ゆかり、地球温暖化交渉のゆくえ - グローバル化した経済における温暖化対策、

神戸大学環境保全推進センター講演会(招待講演)、2014年

(52) 高村ゆかり、国際的な気候変動政策の動向と気候変動研究への要請、独立行政法人海洋研究開発機構主催気候変動リスク情報創生プログラムシンポジウム「気候変動のリスクを知る」パネルディスカッション(招待講演)、2014年

(53) Yukari TAKAMURA、International Regime on Climate Change: Its Challenges Towards Post-2020、"Climate Change and Energy Law: Implementation and Progress in Asia?", organized by Tsinghua University and Konrad Adenauer Stiftung (KAS)(招待講演)、2014年

(54) Yukari TAKAMURA、How to Enhance the effectiveness of International Regime on Climate Change: Challenges Towards Post-2020、IGES-ERI Policy Research Workshop "On the road to Paris: The readiness of key countries for COP 21 and beyond"(招待講演)、2014年

(55) Yukari TAKAMURA、An overview of discussions and process of Intended Nationally Determined Contributions (INDCs) at UNFCCC/ADP、環境省主催、オーストラリア外務・貿易省、石川県共催、第23回地球温暖化アジア太平洋地域セミナー(The Twenty-Third Asia-Pacific Seminar on Climate Change)(招待講演)、2014年

(56) 高村ゆかり、経済のグローバル化における気候変動の国際制度の変容と貿易レジーム、ジェトロ・アジア経済研究所専門講座「途上国からみた『貿易と環境』 - 新システム構築に向けて - 」(招待講演) 2014年

〔図書〕(計4件)

Neil Craik, Cameron, S. Jefferies, Sara L. Seck, Tim Stephens, (Tomoaki Nishimura)、Cambridge University Press、Global Environmental Change and Innovation in International Law、2018、341

津田大介・小嶋裕一編、(高村ゆかり分担執筆)、新曜社、原発の教科書、2017、368

松本(小坂田) 裕子、信山社、先住民族と国際法 - 剥奪の歴史から権利の承認へ - 、2017、267

松井芳郎・富岡仁・坂元茂樹・薬師寺公夫・桐山孝信・西村智朗(編)、東信堂、21世紀の国際法と海洋法の課題、2016、504

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:

種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

西村 智朗 (NISHIMURA, Tomoaki)  
立命館大学・国際関係学部・教授  
研究者番号：70283512

### (2) 研究分担者

高村 ゆかり (TAKAMURA, Yukari)  
名古屋大学・環境学研究科・教授  
研究者番号：70303518

徳川 信治 (TOKUGAWA, Shinji)  
立命館大学・法学部・教授  
研究者番号：60280682

松本(小坂田) 裕子 (MATSUMOTO, Yuko)  
中京大学・法学部・教授  
研究者番号：90550731

松井 章浩 (MATSUI, Akihiro)  
大阪工業大学・専門職大学院知的財産研究  
科・准教授  
研究者番号：20511645

### (3) 連携研究者

( )

### (4) 研究協力者

( )